

地域文化財総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	岩手県奥州市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	奥州市の文化財継承と創造事業	【計画の改善時期】 平成 年度	
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
<p>1 第2次奥州市総合計画前期基本計画、実施計画及び教育振興基本計画（平成28年度策定、平成29年度から） 第2次奥州市総合計画前期基本計画、実施計画及び教育振興基本計画を踏まえ、地域の文化遺産の次世代への継承・発展や、文化遺産を活用して地域活性化を推進するため、下記の取組を実施する。 また、実施計画期間中は、下記の取組を通じて、地域全体で文化遺産を保存・継承し、活用していくための体制の確立を目指す。 計画期間等について、実施計画期間は奥州市総合計画後期基本計画、実施計画及び教育振興基本計画の期間とし、当該計画見直しに併せ見直し、再検討を行う。</p> <p>2 総合計画基本施策「次代をつむぐ歴史遺産の保存と活用」（抜粋）</p> <p>(1) 基本方針 文化財は、先人の知恵を秘めた歴史遺産であり、地域社会の活性化や魅力ある郷土づくり、さらには、市民の学習活動における人づくりの資源でもあります。 市民、特に次世代を担う子ども達が郷土を理解して誇りを持ち、奥州市民として一体感のあるまちづくりを目指し、歴史遺産の調査研究、適切な保存と活用を進めます。</p> <p>(2) 基本施策の展開方法</p> <p>①歴史遺産の公開と活用 重要文化財、史跡等の計画的な整備を行い、魅力ある郷土づくり、人づくりの資源として、その公開と活用を目指します。 ア 国史跡の公開活用 イ 歴史的建造物等の公開活用 ウ 先人顕彰の推進 エ 文化財施設による歴史遺産の公開活用 オ 文化財施設の再編統合</p> <p>②文化財の調査研究の推進 地域に残る文化財の調査研究を行い、併せて郷土の歴史解明と記録を行います。 ア 歴史的建造物の調査研究 イ 歴史資料等の調査・研究の推進 ウ 埋蔵文化財発掘調査 エ 世界文化遺産拡張登録の推進</p> <p>③文化財の保存と管理 地域に残る文化財を次世代へ継承していくため、定期的な点検を行い、保存環境の改善を行います。併せて安全な資料の管理・保管の体制を整えます。 ア 有形文化財の保存と管理 イ 民俗文化財の保存と育成支援 ウ 史跡・名勝・天然記念物の保存と管理 エ 文化財施設の資料・環境整備</p> <p>④文化財保護体制の充実 未来を拓く歴史遺産の保存と活用を進めるため、学芸員を中心とする教育委員会事務局の体制と機能を強化し、関係機関との連携を目指します。 ア 学芸指導体制の強化 イ 文化財関係機関の連携強化</p>			
6 実施体制			
<p>本実施計画に係る全体の企画・調整や、各補助事業に係る指導等は以下の担当課が行う。 教育委員会事務局歴史遺産課：各補助事業における文化財の取扱等に関する指導・調整等 商工観光部商業観光課：観光業務に関する連携等 また、補助事業は次の団体が実施する。 奥州市文化遺産活用実行委員会（委員長：高橋民雄） 構成団体（奥州市芸術文化協会、みちのく奥州文化遺産継承会、小田代神楽保存会）</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成30年度交付決定額： 27,386 千円	平成31年度要望額： 6,830 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	

9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）

奥州市には、古代東北経営の拠点であった胆沢城跡や世界遺産へ拡張登録が期待される白鳥館遺跡、長者ヶ原廃寺跡など5つの国指定史跡をはじめ、297件（国指定18件、県指定51件、市指定228件）の指定文化財や、南部鉄器をはじめとした伝統技術をも有している。

本計画実施によりそれら文化遺産を有効に活用し、広く普及啓蒙事業を行うことは、文化財や地域の伝統産業への理解や関心を高め、今後市民の力による地域の文化遺産の保存と、次世代への確実な継承とともに、市総合計画をはじめ「奥州市 まち・ひとしご創生総合戦略」における重要業績評価指標「市観光入込推計」で目標（237万人）としている観光客の増加に寄与すると考えられるほか、多くの子ども達をはじめ市民が郷土に誇りと、たくましく未来を拓く機会を持つことに繋がり、市の活性化に資するものと期待できる。

特に、本地域は農村地帯であり高齢化、過疎といった社会的な傾向がみられるが、農村社会を構成する集落にはそこで育まれた多様な文化、風習がありそれらが無形の民俗文化財の土壌となっている側面が見受けられる。そのため農村の衰退とともにそうした文化風習、文化財の保存継承も併せて懸念されることから、郷土芸能祭など公開・発表の場を確保し、用具の更新などを行い、活動目標をもたせ、技術を記録継承するなど地域の貴重な伝統文化を次世代へと引き継ぎ、後継者の育成を促すことは、その農村地域社会を持続、活性化することにもつながり、伝統文化の途絶、後継者、担い手不足を少しでも解消するものと期待される。

10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）

事業概要：	・無形民俗文化財保存活用事業（自主財源） 無形民俗文化財等の郷土芸能団体支援事業
事業概要：	・史跡等整備事業（文化庁、市債、自主財源） 胆沢城跡整備事業
事業概要：	・史跡等公開活用事業（自主財源） 胆沢城あやめまつり事業

11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等

現時点において、当該構想等の策定に関する具体的な取り組みを行っていない。

12 担当部局

地方公共団体 担当部局課	奥州市教育委員会事務局 歴史遺産課
-----------------	-------------------

様式 1 - 1 別紙①

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1 :	地域の文化遺産関係資料館、博物館等の年間入館者数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 1 :	文化財施設利用者数	関連事業:		①、②		
目標値 1 :	【現状値】 平成 27 年度 75,000 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 76,000 人					
設定根拠 1 :	総合計画基本計画成果指標 震災後の文化財施設利用者数の増加率1.0% (H23年度～H26年度)を維持を目指すもの。					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
75,367 人	78,458 人	人	人	人	人	
37%	346%					
目標区分 2 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 2 :	その他 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 2 :	観光入込客数	関連事業:		①、②、③		
目標値 2 :	【現状値】 平成 28 年度 2,107 千人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 2,500 千人					
設定根拠 2 :	総合計画基本計画成果指標 指標見直し再設定 29年度目標27年度比2%増、以降前年比3%増を目指すもの。					
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
2,122 千人	1,617 千人	千人	千人	千人	千人	
4%	-125%					
目標区分 3 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 3 :	その他 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 3 :	Y o u T u b e 動画再生回数	関連事業:		②、③		
目標値 3 :	【現状値】 平成 28 年度 0 回 ⇒ 【目標値】 平成 31 年度 1,250 回					
設定根拠 3 :	一般的な南部神楽の動画再生回数(アップから1年で100回以下)を基準にして、毎年前年の2.5倍の再生回数を設定。29年度を200回の設定にする。					
進捗状況 3 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
59 回	3,847 回	回	回	回	回	
5%	308%					

目標区分 4 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 4 :	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 4 :	狼ヶ志田神楽保存会新加入者を毎年2名増	関連事業:		②、③		
目標値 4 :	【現状値】 平成 28 年度 22 人 ⇒ 【目標値】 平成 31 年度 28 人					
設定根拠 4 :	伝承者の高齢化に伴い、今後、南部神楽を伝承する必要な最低限の人数。					
進捗状況 4 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
24 人	28 人	人	人	人	人	
33%	100%					
目標区分 5 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 5 :	その他 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 5 :	小田代神楽の演目の復活 (演舞することのできる演目の数)	関連事業:		④		
目標値 5 :	【現状値】 平成 28 年度 15 演目 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 20 演目					
設定根拠 5 :	現在の会員数で演じられる演目は15演目だが、備品整備事業後は会員の増加も見込まれるので、会員減少により舞うことが出来なくなった演目に取り組み、5年後には合わせて20演目を舞うことができるようにする。					
進捗状況 5 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
16 演目	18 演目	演目	演目	演目	演目	
20%	60%					
目標区分 6 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 6 :	その他 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 6 :	奥州市Web博物館のアクセス数	関連事業:		②、③、④		
目標値 6 :	【現状値】 平成 27 年度 2,500 回 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 5,000 回					
設定根拠 6 :	総合計画基本計画成果指標 市ホームページの年間観覧者数 (カウント数) の増加を目指すもの。					
進捗状況 6 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
3,522 回	3,077 回	回	回	回	回	
41%	23%					

8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①：	奥州子ども芸術発表会開催事業					実施団体：	奥州市芸術文化協会				
事業区分：	普及啓発					事業期間：	平成 29 年度 ~ 平成 33 年度				
事業概要：	保存会や子供達による奥州市の文化遺産の伝統芸能の発表と、邦楽・日本舞踊などの伝統文化に取り組む子供たちの発表も交えて開催し、奥州市の文化遺産の普及に努める。										
評価指標区分：	・保存会への新規入会者数					(具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標：	「奥州子ども芸術発表会」に出演する郷土芸能保存会の新規会員を毎年2名、5年間で10名を目指す。										
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 2 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 10 人										
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度						
3 人	9 人										
13%	88%										
事業②：	南部神楽情報発信並びに継承事業					実施団体：	みちのく奥州文化遺産継承会				
事業区分：	記録作成					事業期間：	平成 29 年度 ~ 平成 31 年度				
事業概要：	岩手県内の神楽の中でも、特に奥州市内を含む岩手県南を中心に伝承されている「南部神楽」の継承のため映像記録を作成し、さらに普及版を活用し広く南部神楽の情報発信をする。										
評価指標区分：	・その他					(具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標：	コンテンツダウンロード数(掲載HPや動画共有サイトでの再生回数等) 動画共有サイト(Y o u T u b e)での再生回数を前年の2.5倍に設定する。										
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 0 回 ⇒ 【目標値】 平成 31 年度 1,250 回										
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度						
59 回	3,847 回										
5%	308%										
事業③：	南部神楽情報発信並びに継承事業					実施団体：	みちのく奥州文化遺産継承会				
事業区分：	後継者養成					事業期間：	平成 29 年度 ~ 平成 31 年度				
事業概要：	事業②の成果を活用して南部神楽の継承者の育成を図る。										
評価指標区分：	・保存会への新規入会者数					(具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標：	狼ヶ志田神楽保存会の新会員を毎年2名ずつ増やし、未修演目の解消を目指す。										
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 22 名 ⇒ 【目標値】 平成 31 年度 28 名										
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度						
24 名	28 名										
33%	100%										

事業④：	小田代神楽継承のために用いる用具の整備事業			実施団体：	小田代神楽保存会	
事業区分：	用具等整備			事業期間：	平成 29 年度 ~ 平成 33 年度	
事業概要：	創始120余年の小田代神楽の演目の復活を目指し、老朽化した備品を整備する。整備後は地元神社での奉納、各種神楽大会に出演し、小田代神楽の普及啓発に努める。					
評価指標区分：	・その他				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	小田代神楽の演目の復活 (演舞することのできる演目の数)					
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 15 演目 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 20 演目					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
16 演目	18 演目	演目	演目	演目	演目	
20%	60%					